

風力タービンメーカーVestas 社、経営の最悪期を脱する¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット

新エネルギーグループ

2012 年の世界の風力発電導入量は前年より 4GW 多い 44GW を記録し、同年末の累積導入量は 282GW に達した。しかしながら世界の多くの風力タービンメーカーは過去の過大な生産設備への投資が重石となり、依然として苦しい経営状況が続いている。

本年 5 月に発表された Vestas Wind Systems 社の 2013 年第一四半期財務報告²を見ると、タービン製造・出荷額は 613MW³で前年同期の 931MW より 34%減少した。しかし、売上高は約 11 億ユーロと前年同期とほぼ同じ額を確保し、製造コストの削減により売り上げ総利益（粗利益）は 12 百万ユーロから 58 百万ユーロへと増加した。一般管理費、営業費、研究開発費等の間接費(166 百万ユーロ)は前年より 50 百万ユーロ減少したが、これを入れると 108 百万ユーロの赤字となる。これに人員解雇⁴費用等特別支出（14 百万ユーロ）を入れると、支払金利前税引前利益（EBIT）は 122 百万ユーロの赤字、金利支払い後の純利益は 151 百万ユーロの赤字であった。

依然として赤字は続いているが、EBIT の赤字幅は昨年同期の 245 百万ユーロから半減した。また、フリー・キャッシュ・フローも前年同期のマイナス 295 百万ユーロからマイナス 60 百万ユーロへと大きく減少し、資金繰りが改善されている。Vestas Wind Systems 社のエンゲル社長は「EBIT とフリー・キャッシュ・フローの改善は、業績回復へ向けた企業努力が実を結びつつあることを示している」と述べた。コペンハーゲン株式市場での株価は 2008 年 8 月の 680 デンマーククローネ（DKK）から 2012 年 11 月の 25 DKK まで大幅に下落したが、その後緩やかな回復基調に転じ本年 7 月には 100 DKK 近くまで戻している。

経営不振が長く続く Vestas Wind Systems 社は身売り交渉を進めているとの観測が繰り返され流されていた。2012 年 4 月には、中国の風力発電タービンメーカー² 社が株式公開買い付け(TOB)を検討していると報道された。2012 年 8 月には「Vestas Wind Systems 社は三菱重工業と戦略的提携の可能性について協議を進めている」との市場観測情報が流され、同社はその情報は事実であるとの声明を発表した。しかし、最近はこのような憶測は影を潜めている。

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業（海外省エネ等動向調査）」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² Interim financial report – First quarter 2013

http://www.vestas.com/Files/Filer/EN/Investor/Financial_reports/2013/Q1/130508_CA_UK_18.pdf

³ 欧州・アフリカ向け 317MW、南北アメリカ向け 233MW、アジア太平洋向け 63MW

⁴ 人員は昨年 3 月末の 22,576 人から本年 3 月末の 17,196 人と 5,380 人減少した。

Vestas Wind Systems 社の経営改善計画は、1) コスト削減（タービン製造直接コスト及び一般管理費等の間接コストの削減）、2) 研究投資額の削減、3) 経営効率の改善の 3 つを柱としている。1) については、ボルト・ネジに至るまでタービン部品生産コストの徹底的な見直しと不要な工場、事務所の閉鎖、2) については発電効率の向上を目的とした新製品（タービン）の開発は既に確立した技術を基にして行い、新技術の開発を伴う製品開発は行わない、3) については部品製造の一部を信頼できる部品メーカーに委託する、タワー単体の販売も行う等経営資源の有効活用が含まれている。

一方、長期的には今後需要が伸びると予測されている大規模洋上風力タービンの開発は継続し、8MW タービンの実証試験を 2014 年の第一四半期に予定している。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp